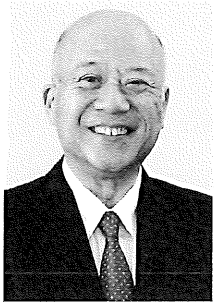


定年後も続けられる仕事② 「小さな仕事」に就いて、働く喜びを実感しよう!

お金とやりがいを得られる 「定年後にお勧めの仕事」6



髙齢社代表取締役社長
村関不三夫
Fumio Murazeki

1956年、千葉県生まれ。東京大学法学部卒業後、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院修了。79年、東京ガス㈱に入社。エネルギーソリューション本部長、同社取締役常務執行役員等を歴任後、2016年、東京ガスリキッドホールディングス㈱代表取締役社長、18年に髙ガスター取締役会長を務める。21年4月より現職。

お金の面、やりがいの面でも必要と考え、「定年後も働き続けなければ……」と憂鬱な気持ちを持つ方もいるだろう。しかし、登録者の平均年齢71歳の人材派遣会社・髙齢社代表取締役の村関不三夫氏は、定年後に働いている人たちの多くが、やりがいを持って働き、満足度は高いという。定年後にお勧めの仕事内容と共に取材した。

取材・構成：林 加愛

定年後を幸せに過ごせる 満たすべき3つの条件

髙齢社は、その名の通り、高齢者に特化した人材派遣会社です。登録者の平均年齢は71歳、私自身も67歳の社長として、定年後も働き続けています。

50代の方々は、そろそろ定年後を意識し始める頃でしょう。中には、「定年後も働き続けなくてはならないのか……」と憂鬱になっている方もいるかもしれません。

「働いたほうが幸せ」です。老後を幸せに過ごすための条件は3つあります。第1に、健康でいること。第2に、孤独でないこと。そして第3に、お金を「そこそこ」稼げること。働けば、この3つを満たすことができます。

さて、「そこそこ」と言いましたが、ここも重要な点です。定年後は、現役時代から発想を転換する必要があります。現役時代の働く目的は、「家庭を支えるため」が多くを占めます。

子どもの教育費や住宅ローンの返済など、背負うものは多々。ですから高い収入を望むのは自然なことです。

定年後の働き手が持つ強み

① 土日に働ける



定年後は毎日が休日であるため、現役社員が嫌がる休日出勤を代替して働くことができる

② 早朝の仕事に強い



年齢を重ねると朝が早くなる傾向にある。現役社員が行なうと特別な手当が必要な早朝出勤を代替でき、午後からの就業後の時間も有効に使える

しかし定年後は、そうした肩の荷を下ろせる人が大半です。加えて月々の生活費も現役時代ほどはかさまなくなり、65歳からは年金受給も始まります。必死であくせく働く必要がない方も多いのではないかと思います。

お金のためではなく、自分の幸せのために働くという発想に切り替えるべきときなのです。

ちなみに私は、65歳を「第2の定年」と呼んでいます。第1の定年は、多くの会社が定年と定める60歳。その後、再雇用等の期間を終え、65歳で実質上の定年後が始まります。

この時点で、いったん働かないことを選んだ方は、たいいてい暇を持て余します。当社にも、家族の方に「なんでいつも家にいるの?」と文句を言われて登

録された方が多数。その方々は今、自身の幸せのために、生き生きと働かれています。

高齢者の特徴が活きる 仕事は意外と多くある

当社ではフルタイムの仕事はほとんどなく、日数も週に数回程度。収入の平均値は、10万円から15万円程度ですが、年金と合わせれば、だいたい十分な水準になります。働いて稼ぐお金は「そこそこ」でいいということです。そうして自分で稼いだプラスαでお孫さんのお小遣いを出せたり、趣味を楽しめたり、といった幸福が得られます。

登録者は趣味を満喫する方が多く、当社最高齢の82歳の方は、週に1回勤務しながら、社交ダンスや詩吟を楽しんでいらっし

今の仕事の延長線上ではない、新しい働き方へとシフトしたとき、現役時代とはまるで別種の、働く幸福を感じられます

やいます。

高齢者が働くことで、派遣先にも大きなメリットがあります。社会には、高齢の働き手へのニーズが意外に多くあるのです。

例えば、土日に働ける点。現役世代が土日出勤するのは大変ですが、定年後の高齢者なら土日だけ働くかたちで対応できます。

そもそも当社も、そのニーズに応えるべく、東京ガスのOBが集まって立ち上げた会社です。祖業は、マンション竣工時のガス器具の使用法の説明です。こ

うした説明会は土日が多いため、創業者が暇なOBを集めて、事業を始めたのです。

それから20年余、仕事の幅も広がりましたが、正社員が対応しづらい時間帯の仕事は、今も多く請け負っています。例えば、レンタカーの営業所の受付業務。朝6時など、早朝からの勤務は社員の方々にはつらいですが、高齢者は朝に強いので大いに役立っています。

なおこの業務、朝6時に入れば午前中に定時となり、別の人員に引き継がれます。これは、当社が取り入れている「ワークシェアリング」という働き方で、1件の求人に対し、複数人で日数や時間を分けることで、働き手は心身共に無理なく、好

きな時間に働けます。こういった働き方も増えています。

洗濯、清掃、パッキング、「助手席に座る」仕事も

当社の派遣先は、6割が東京ガス関係。ガス器具の取扱い説明の他、販売店「東京ガスライフバル」への派遣も多数。前述の82歳の方は「LNGの受け入れ立ち会い業務」といって、工場等に搬入される液体ガスを気体に戻す作業に立ち会う仕事に就いています。

また、洗濯の仕事もあります。東京ガスでは、制服が第三者に悪用されることを防ぐため、スタッフが持ち帰ることを禁じているところもあり、各事業所で制服を管理します。そこで制服を洗ってアイロンがけをする人が必要となるのです。東京ガス関連以外ではゴルフ場のコース管理補助や、スーパーマーケットのバックヤードで食材をパッキングする仕事、マンションの管理業務などがあります。

人気が高いのは「横乗り業務」。家電メーカーの作業員が、エアコン修理等でお客様の家を訪問中に、駐車場を探す手間を省くと共に、駐車違反を出さないように助手席で待機する仕事です。このように、ほとんどの仕事

定年後に求められる人材

① 持っている資格ではなく、実務経験がある



実務経験の伴わない資格取得者よりも、即戦力となるプレイヤーのほうが求められる

② 現役時代のポジションは関係なく、人柄・人間性が良い



現役時代のポジションを引きずって尊大な人は続かない。仕事があることに感謝する謙虚な人が求められる

は、どなたにもできるシンプルなもの。資格も特に必要なく、あえて言えば「運転免許があれば便利」といった程度です。

定年後に求められる人材か否かの分かれ目とは？

資格が必要な仕事も少数ながらあります。ここでは「実務能力」が重視されます。募集の際に、たいいてい実務に携わったことがあるかが問われます。

登録者には資格保有者が多く、調理師免許や一級・二級建築士、英検1級など、分野も多種多様。その技能を活かせるなら良いですが、例えば「資格マニア」のような、取得そのものを目的とするタイプの方の場合、さほどニーズは高くなりません。

また、「元・経理部長」といった肩書より、経理実務の経験のほうがものを言います。つまり、望まれるのは即戦力となるプレイヤー。会社はそうした仕事内容に応じて募集を行ない、当社はそれに応えてマッチングを行なっています。その意味では、今どきの言葉で言う「ジョブ型雇用」とも重なり合うところがあります。

他にも、望まれる人材になるか否かを分けるポイントがあります。それは人柄、さらに言えば人間性です。

登録時の面接や就業スタートの際に必ず伝えるのは、「過去の肩書にとらわれてはいけない」ということです。かつて高いポジションに就いていたからとい

村関氏お勧めの定年後の仕事

※高齢社で実績のある派遣業務を例に紹介しています

④ 輸入ワインの出荷補助業務

- 仕事内容: 検品、不良品チェック、出荷商品のピッキング、ラベル貼り等
- 必要資格・経験等: 特に必要なし
- 勤務日: 平日2~3日
- 勤務時間: 9~17時

① レンタカー受付補助業務

- 仕事内容: 駐車場からレンタカーの移動、貸渡、洗車、車内点検、掃除、ガソリン給油、レンタカーの回送及びそれに付随する業務
- 必要資格・経験等: 普通自動車免許(AT可)
- 勤務日: 週3~4日
- 勤務時間: 5~6時間

⑤ 分譲マンションの管理人

- 仕事内容: お客様の対応、共用部の清掃、ゴミ置き場の清掃業務
- 必要資格・経験等: 体力、気力のある方
- 勤務日: 週3~4日程度(土、日曜日含む)
- 勤務時間: 4~6時間程度

② 家電機器修理車両の運転補助

- 仕事内容: 修理中の駐車違反対策で助手席に乗車する業務
- 必要資格・経験等: 普通自動車第1種の運転免許のある方
- 勤務日: 週2~4日程度(土、日曜日含む)、交替勤務で対応
- 勤務時間: 6~8時間程度

⑥ 経理・総務関係 事務補助

- 仕事内容: 経理又は総務事務補助業務
- 必要資格・経験等: パソコンができる方で経験者、簿記2級以上あれば尚可
- 勤務日: 週3~4日程度(平日)
- 勤務時間: 6~8時間程度

③ スーパー鮮魚売り場

- 仕事内容: 魚処理(パック状に加工)
- 必要資格・経験等: 特に必要なし
(希望: 小売店舗で魚をさばいた経験があること)
- 勤務日: 週3~4日程度
- 勤務時間: 10~13時

「小さな仕事」から得られる働く喜び

「そう簡単に気持ち切り替えられないのでは?」と思う方もいるでしょう。そこでご参考までに、私の経験をお話しします。私も現役時代、役員についていました。東京ガスで営業のトップを務め、その後、系列会社の会長に。ところが会長というポジションには、仕事がありません。デイリーワークがなく、退屈を持て余す毎日。

その後、65歳で高齢社の社長になりました。社長といっても本社は20人程度の小さな所帯です。自分でも何もしなくてはなりません。最初に行なったのは、登録者へのアンケートの作成と郵送および、返ってきた情報の入力。デイリーワークの極みと言ってもよい仕事でした。その仕事に、私は心底、やりがいを感じたのです。役に立っている実感も徐々に持てました。現在もそうした細かな業務には事欠かず、それが楽しさにつなが

つて、尊大な態度を取るような人はうまくいきません。仕事があることに感謝し、謙虚な気持ちで臨むこと。これが、定年後の働き方における最重要ポイントと言ってよいでしょう。

「ほんとうの定年後」方があります。『ほんとうの定年後』という本を著した、リクルートワークスの研究者・坂本貴志氏です。坂本氏は本書において、データを基に定年後の就労のあり方を緻密に分析しています。それは、私たちが提唱する働き方と合致するところが非常に多くありました。

例えば、定年後は生活費もコンパクトになるため、お金のためではなく自分の楽しみのために働くのが望ましいこと。定年後の就労者は(意外にも)現役時より満足度高く働いていること。その喜びの核には、役に立っている実感がある——細々とした現場仕事であるがゆえの、人に喜ばれる瞬間が味わえること。

40代・50代の方にはぜひ、こうした真の姿を知っていただきたいと思えます。高齢期に働くことは、面倒でも憂鬱でもありません。今の仕事の延長線上ではない、新しい働き方へとシフトしたとき、現役時代とはまるで別種の、働く幸福を感じられるでしょう。